

I 土地及び気象

位置及び面積

本市は、沖縄本島の南側に位置し、東シナ海に面する西海岸沿いであって、東に西原町、南に那覇市、北東に宜野湾市が隣接している。市域（飛地を含む）は、東西 8.4km、南北 4.6kmで、北を頂点として南西と南東に広がった扇状の形をしている。総面積は、平成16年11月5日に西洲2丁目のふ頭用地の埋立（0.03km²）が、告示編入されたため、19.09km²となった。

（1） 位置及び面積（平成22年10月1日現在）

浦 添 市 の 位 置 ・ 面 積					市 庁 舎 の 位 置	
方 向	地 名	経 緯 度		面 積	所 在 地	経 緯 度
		経 度	緯 度			
東 端	西 原	東経127° 45′ 11″	北緯 26° 15′ 05″	19.09km ²	浦添市安波茶 一丁目1番1号	東経127° 43′ 19″
西 端	伊奈武瀬	東経127° 40′ 08″	北緯 26° 14′ 46″			北緯 26° 14′ 45″
南 端	沢 岬	東経127° 43′ 18″	北緯 26° 14′ 00″			
北 端	牧 港	東経127° 42′ 57″	北緯 26° 16′ 30″			

（注）座標値は世界測地系によるものです。資料：国土地理院「平成22年全国都道府県市区町村面積調」

地 質

本市の地質は小禄砂岩層、与那原粘土層、琉球石灰岩、沖積層、海岸堆積層からなっている。そのおおかたは小禄砂岩層と与那原粘土層を基盤としてその上に琉球石灰岩が載り、土壌は与那原粘土層の風化土壌であるジャーガルと琉球石灰岩の風化土壌である島尻マージが市域に広く分布し、アルカリ性で肥沃な土壌となっている。

分布状況を地域別にみると、西原、当山付近と前田の一部は与那原粘土層が広がり、その地域から牧港方面に細く続いている。この地域の北側（市境の北側沿い）には、琉球石灰岩に覆われた地域も幾分残っている。そして、伊祖から港川につらなる丘陵に沿うようにして細く琉球石灰岩の地域があり、港川、牧港あたりで広がっている。その丘陵の南、緩傾斜する一帯には小禄砂岩層が広範にわたって露出している。これは前田の南側、経塚、仲間、安波茶あたりから伊祖の一部地域をとおって城間、港川一帯まで広く露出している。

中央低地部はほとんどが与那原粘土層で覆われ、また、沢岬と安波茶の高台には琉球石灰岩が少し残る程度である。中央部から西側、つまり国道58号付近から海岸線近くは勢理客と港川を両端として城間、屋富祖、仲西が弧をえがいた台地になり、琉球石灰岩に覆われているが、城間の高台では与那原粘土層が露出している。

本市に分布する琉球石灰岩はおおかた那覇石灰岩から成るが、ところどころに牧港石灰岩と読谷石灰岩が分布している。また、海岸沿いの地域は主に海岸堆積層から成っているが、河口と低地には沖積層も分布している。

（2） 地 質 （単位：km²、％）

区 分	総 数	与那原粘土層	小禄砂岩層	琉球石灰岩	沖 積 層	海岸堆積層	埋立て
面 積 (k m ²)	19.09	8.11	2.24	5.90	0.22	0.88	1.74
構成比 (%)	100.0	42.5	11.7	31.0	1.2	4.6	9.0

（注）昭和34年太平洋米軍司令部の資料による。資料：企画課

地 勢

市の地勢は、市域の東側に沖縄本島を縦断する丘陵が細長い状態で横たわっており、その丘陵から直角の方向で一つの細い丘陵が市域のやや北側をとって西の方向へゆるやかに傾斜し、海岸沿いまで続いている。地形をみると、市域の中間部から東側は標高60メートルから140メートルの丘陵が波状となって激しい起伏を呈し、西側にかけては標高50メートル内外の高さから西海岸へ比較的起伏のゆるやかな状態で傾斜している。したがって、市を通る4つの河川は、いずれも市の東境界かいわいを上域として西流し、東支那海にゆるやかにそそいでいる。

(3) 地 勢

(単位：km²、%)

区 分	総 数	20m 未満	20m ～ 40m	40m ～ 60m	60m ～ 80m	80m ～ 100m	100m～ 120m	120m～ 以上
面 積 (k m ²)	19.09	6.05	5.48	1.98	2.27	2.30	0.91	0.10
構 成 比 (%)	100.0	31.7	28.7	10.4	11.9	12.0	4.8	0.5

資料：企画課

(4) 埋立地面積及び用途状況（平成22年4月1日現在）

(単位：m²)

編 入 年 月 日	編入面積 (m ²)	埋 立 地 名	用 途
総 数	1,724,071.96		
昭和40年6月17日	731.25	牧港奥崎原	事 務 所
昭和40年12月30日	1,470.88	〃	〃
〃	6,730.36	勢理客城門原	事務所・製材所
〃	23,140.00	港川越地原	工 場
昭和41年6月16日	286.24	牧港奥崎原	給 油 所
昭和41年12月28日	24,630.25	港川崎原	未 使 用
昭和42年3月30日	17,652.58	勢理客城門原	組 踊 り
〃	31,168.45	港川越地原	〃
〃	43,497.10	勢理客城門原	学 校 場
〃	16,862.30	〃	工 場
〃	37,631.72	港川越地原	〃
昭和42年4月1日	38,777.86	小湾城門原・勢理客立山原	〃
昭和42年10月11日	23,217.73	港川港川原	ゴルフレンジ
昭和44年3月22日	64,291.79	牧港上野原	住宅・骨材集積所
〃	36,892.35	港川越地原	事 務 所
昭和44年3月22日	116,415.23	牧港新聞原	事務所・発電所
昭和48年1月23日	33,708.30	港川越地原	自動車修理工場
昭和52年1月17日	83,105.84	勢理客	船舶修理工場
昭和55年8月11日	220,595.46	〃	塵芥処理施設
昭和60年11月5日	7,646.30	〃	小 型 船 溜
昭和62年6月9日	12,493.32	〃	〃
昭和63年1月26日	38,715.03	牧 港	漁 港
昭和63年7月29日	36,592.55	〃	車海老養殖施設
昭和63年10月25日	2,892.54	勢理客	小 型 船 溜
平成元年1月10日	425,285.98	西 洲	卸 商 業 団 地
平成元年7月21日	60,671.61	〃	港湾関連用地
平成元年8月29日	9,451.06	勢理客	ふ 頭 用 地
平成2年2月16日	37,640.53	西 洲	港湾関連用地
平成3年5月24日	94,806.20	西 洲・勢理客	緑 地
平成5年4月23日	14,070.62	西 洲	ふ 頭 用 地
平成9年11月18日	17,008.76	牧港新聞原	車海老養殖施設
平成11年3月2日	55,999.25	西洲2丁目	ふ 頭 用 地
平成12年9月19日	59,524.46	西洲2丁目	ふ 頭 用 地
平成16年11月5日	30,468.06	西洲2丁目	ふ 頭 用 地

資料：西海岸開発課

(5) 地目別土地面積の推移 (各年共1月1日現在)

(単位:km²)

年次	総面積	畑	宅地	原野	池沼	雑種地	軍用地	その他
平成18年	19.090	0.972	7.846	1.138	0.046	1.685	2.658	4.745
19	19.090	0.919	7.850	1.126	0.046	1.728	2.658	4.763
20	19.090	0.855	7.865	1.107	0.045	1.686	2.658	4.874
21	19.090	0.775	7.859	1.014	0.045	1.651	2.658	5.088
22	19.090	0.761	8.393	1.005	0.045	1.663	2.658	4.565

(注) 総面積は、建設省国土地理院の「全国都道府県市区町村別面積調」である。資料：資産税課
 その他は、総面積から畑、宅地（事業所敷地を含む）、原野、池沼（車海老養殖場含む）、
 雑種地（埋立地含む）、軍用地を差引いた数値である。

(6) 用途別農地転用 (各年度3月末現在)

(単位:㎡)

年 度	総 数		住 宅 用 地		工業用地		公共用地		そ の 他	
	件 数	面 積	件 数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件 数	面 積
平成17年	95	48,071	54	24,264	-	-	-	-	41	23,807
18	148	49,496	115	45,155	-	-	-	-	33	4,341
19	116	49,727	73	39,783	-	-	-	-	43	9,944
20	129	37,007	80	23,470	-	-	-	-	49	13,537
21	158	37,920	140	32,576	-	-	-	-	18	5,344

(注) 農地法の許可あるいは届出を要しないものは除いた。資料：商工産業課

(7) 字別農地面積 (平成22年12月末現在)

(単位:筆、㎡、%)

字 別	転 用 面 積		農 地 面 積		調 整 区 域 農 地 面 積	市 街 化 区 域 農 地 面 積
	筆 数	面 積	面 積	構成比		
総 数	92	32,008	244,771	100.0%	84,532	160,239
仲 間	2	551	14,970	6.1%	-	14,970
安 波 茶	2	948	2,963	1.2%	-	2,963
伊 祖	1	81	842	0.3%	-	842
牧 港	12	5,596	6,987	2.9%	-	6,987
港 川	9	2,842	-	-	-	-
城 間	-	-	-	-	-	-
屋 富 祖	-	-	-	-	-	-
宮 城	6	1,067	3,877	1.6%	-	3,877
仲 西	-	-	-	-	-	-
小 湾	-	-	-	-	-	-
勢 理 客	-	-	-	-	-	-
内 間	4	486	-	-	-	-
沢 岨	4	2,906	15,479	6.3%	-	15,479
経 塚	17	6,119	11,518	4.7%	-	11,518
前 田	17	6,612	62,305	25.5%	23,613	38,692
西 原	10	886	39,481	16.1%	19,313	20,168
当 山	3	2,203	66,807	27.3%	41,606	25,201
大 平	5	1,711	19,542	8.0%	-	19,542

(注) (1) 農地面積は平成22年8月1日調査の農地台帳面積である。資料：商工産業課
 (2) 字別転用面積の合計で、1㎡未満は削除し、農地面積の構成比は、小数点2位以下を四捨五入した。
 (3) 区画整理事業施行中（換地処分前）の地番の届出面積は仮換地先の面積ではなく従前地の面積である。

河 川

市内には全長約3～5km、幅員約50～90mの小規模クラスの4つの河川（安謝川、小湾川、※シリン川、牧港川）があり、そのいずれも市の東高台地域を上流として西側に流れ、東支那海にゆるやかに注いでいる。また、平均水位や平均流量はともに少ない。

水質についてみると、安謝川は周辺に工場や事業所が多いため、悪臭を発生している箇所もみられる。牧港川や小湾川は下水道の普及等により、以前に比べて、水質の改善がみられる。水質汚濁の原因は、70～80％が生活雑排水であるといわれており、今後環境にやさしいライフスタイルへの見直しが求められている。

(8) 河 川 (平成21年度)

(単位：水位cm、流量 m^3/s)

区 分		安 謝 川	小 湾 川	牧 港 川
最 大 幅 員 (m)		—	—	—
流 路 延 長 (m)		5,200	4,300	3,300
流 域 面 積 (k m^2)		(3.70)	(-)	(6.16)
		8.10	4.83	15.17
年 平 均	水 位 (cm)	21	—	3
	流 量 (m^3/s)	0.18	—	0.38
時 間 最 大	水 位 (cm)	104	—	100
	流 量 (m^3/s)	38.08	—	25.74
豊 水	水 位 (cm)	21	—	5
	流 量 (m^3/s)	0.09	—	0.23
平 水	水 位 (cm)	20	—	0
	流 量 (m^3/s)	0.05	—	0.11
低 水	水 位 (cm)	20	—	△ 3
	流 量 (m^3/s)	0.04	—	0.08
渴 水	水 位 (cm)	20	—	△ 5
	流 量 (m^3/s)	0.03	—	0.06
時 間 最 小	水 位 (cm)	19	—	△ 9
	流 量 (m^3/s)	0.02	—	0.03

資料：沖縄県河川課

(注) 全て2級河川である。

流域面積 () 書は観測地点における面積である。 流路延長は2級河川指定延長である。

水位は、各観測所で設けている基準面から水面までの高さであるため、マイナスになる場合もある。

1. 年平均水位 (流量)・・・日平均流量の1年の統計を当年日数で除した水位 (流量)
2. 最大水位 (流量)・・・一年を通じて最大の水位 (流量)
3. 豊水位 (流量)・・・1年を通じて95日はこれを下らない水位 (流量)
4. 平水位 (流量)・・・1年を通じて185日はこれを下らない水位 (流量)
5. 低水位 (流量)・・・1年を通じて275日はこれを下らない水位 (流量)
6. 渴水位 (流量)・・・1年を通じて355日はこれを下らない水位 (流量)
7. 最小水位 (流量)・・・1年を通じて最小の水位 (流量)

(9) 水 質

(単位：透視度(度)、大腸菌群数 MPN/100ml、mg/l)

区 分		安 謝 川			小 湾 川			牧 港 川		
		上 流	中 流	下 流	上 流	中 流	下 流	上 流	中 流	下 流
調 査 地 点		平良橋	花見橋	安謝橋	経塚橋	鏡 橋	小湾橋	勢理橋	安川団地 西側	牧港 第二橋
臭 気	20年度	無臭	無臭	無臭	微下水臭 無臭	微下水臭 無臭	微下水臭	下水臭 微下水臭	微下水臭 無臭	微下水臭
	21年度	無臭	無臭	無臭	微下水臭	微下水臭	微下水臭	下水臭 微下水臭	微下水臭	微下水臭
色 相	20年度	無色	無色	無色	微褐色 微黄褐色 無色	微黄褐色 無色	微黄褐色 微褐色 無色	微白濁色 微褐色 微灰濁色 微黄褐色	微褐色 微黄褐色	微褐色 微黄褐色
	21年度	無色	無色	無色	微黄褐色 無色	微褐色 微黄褐色 無色	微褐色 微黄褐色	微白濁色 微褐色 微灰濁色 微黄褐色	微褐色 微黄褐色 無色	微褐色 微黄褐色
透視度	20年度	30以上	30以上	30以上	30以上	30以上	30以上	26～ 30以上	30以上	30以上
	21年度	30以上	30以上	30以上	30以上	30以上	30以上	24～ 30以上	30以上	23～ 30以上
p h	20年度	7.9	7.9	7.7	8.0	7.6	7.6	7.4	7.6	7.9
		～8.5	～8.2	～8.0	～8.6	～8.5	～8.4	～8.2	～8.5	～8.6
	21年度	7.9	7.9	7.4	8.2	7.5	7.7	7.5	7.6	8.1
		～8.2	～8.2	～7.8	～8.5	～8.5	～8.4	～7.9	～8.1	～8.6
D O (平均)	20年度	8.6	7.0	4.2	11.9	6.9	7.2	3.5	6.1	7.1
	21年度	7.9	8.4	5.1	12.6	8.3	7.4	3.4	6.8	8.5
B O D (平均)	20年度	3.4	0.5	1.2	3.7	3.6	4.0	29.0	7.0	4.7
	21年度	2.4	0.5	1.4	2.5	3.6	3.0	22.4	7.5	5.2
S S (平均)	20年度	2.0	2.0	9.0	2.3	1.1	5.8	8.8	5.1	14.4
	21年度	1.0	3.0	4.0	1.4	1.3	8.2	7.2	5.3	11.8
大腸菌 群 集 (平均)	20年度	1.1×10^5	9.3×10^3	3.0×10^4	4.4×10^5	1.1×10^5	9.1×10^4	1.9×10^9	1.4×10^6	1.9×10^5
	21年度	7.9×10^4	8.1×10^4	5.4×10^3	4.6×10^4	3.5×10^5	6.6×10^4	1.6×10^8	4.1×10^5	6.5×10^4

資料：那覇市環境保全課（安謝川）

浦添市環境保全課（小湾川、牧港川）

(注)

1. 水素イオン濃度 (p h) ・ ・ ・ ・ ・ 酸性<ph=7<アルカリ性
2. 生物化学的酸素要求量 (B O D) ・ ・ 有機生物質が微生物によって生物化学的に酸化される際に消費される酸素量のこと。(5mg/ l以上でフナ、コイの棲息は不可能、10mg/ l以上になると臭気が発生する)
3. 溶存酸素量 (D O) ・ ・ ・ ・ ・ 水中に溶解している酸素量のこと(魚が棲息するには5mg/ m³以上必要)
4. 浮遊物質 (S S) ・ ・ ・ ・ ・ 水に溶けない懸濁性の物質のことで、この沈殿物が有機物であれば分解するのにDOを消費して水中生物に悪い影響を与える。(ヘドロやメタンガスの発生の原因となる)

土地及び気象

(10) 気象観測値

観測値 年 月	海面気圧(hPa)	気 温 (℃)							湿 度 (%)			
	平 均	平均	最 高			最 低			平均	最 小		
			気温	月	日	気温	月	日		湿度	月	日
平成17年	1014.3	23.1	34.6	8	1	9.0	3	6	70	31	4	15
18	1013.8	23.5	35.0	6	30	10.2	1	8	75	34	11	12
19	1013.7	23.5	34.5	7	4	10.9	1	30	72	29	5	17
20	1014.2	23.4	33.8	7	6	10.7	2	16	71	30	5	21
21	1013.5	23.4	34.6	9	12	9.3	1	26	72	10	5	9
22	1014.4	23.1	33.2	7	14	9.1	1	15	74	33	3	29
22年 1 月	1021.8	16.8	24.4	1	31	9.1	1	15	67	37	1	16
2	1017.7	18.3	26.1	2	11	12.0	2	20*	77	38	2	20
3	1018.6	19.9	27.3	3	6*	9.7	3	10	71	33	3	29
4	1016.2	21.2	28.6	4	21	15.1	4	3	76	46	4	30
5	1010.8	23.8	30.0	5	22	16.5	5	14	79	39	5	12
6	1009.6	26.7	32.0	6	27	20.9	6	1	82	56	6	1
7	1010.9	28.7	33.2	7	14	24.3	7	29*	80	55	7	16
8	1009.8	28.9	32.9	8	15	24.3	8	9	79	59	8	24
9	1011.6	28.0	32.6	9	14	23.4	9	27	76	46	9	25
10	1012.4	25.7	31.8	10	2	19.6	10	28	74	46	10	7
11	1017.7	21.4	26.3	11	22	16.3	11	27*	66	40	11	26
12	1016.1	18.1	26.9	12	2	10.3	12	28	64	37	12	27

(注) 沖縄気象台の観測値である。(北緯26度12分、東経127度41分、標高28.1m)

- (1) 「海面気圧」は年または月の平均値である。
- (2) 「平均気温」は年または月の平均値、「最高気温」、「最低気温」はそれぞれの期間中の最高の値、最低の値を示している。
- (3) 「平均湿度」は年または月の平均値、「最小湿度」はその期間中の最小の値である。
- (4) *は、極値の起日が複数存在する場合に表す。

(11) 台風発生数及び沖縄県や那覇に接近した台風数(平成22年)

区 分	総 数	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
台 風 発 生 数	14 (26.9)	-	-	1	-	-	-	2	5	4	2	-	-
		(0.5)	(0.1)	(0.4)	(0.8)	(1.0)	(1.7)	(4.1)	(5.5)	(5.1)	(3.9)	(2.5)	(1.3)
沖縄県に 接近した 台 風 数	7 (7.4)	-	-	-	-	-	-	-	3	3	1	-	-
		-	-	-	-	(0.3)	(0.6)	(1.5)	(2.3)	(1.4)	(0.8)	(0.5)	-

(注) 資料：沖縄気象台

1. 「台風発生数」の()は平年値で1971～2000年(昭和46～平成12年)の30年間平均値である。
2. 「沖縄県に接近した台風数」の()は平年値で1971～2000年(昭和46～平成12年)の30年間平均値である。
 なお、沖縄県への接近とは那覇、名護、久米島、宮古島、石垣島、西表島、与那国島、南大東島の各気象官署等のいずれかから300km以内を通過した台風をいう。
3. 那覇への接近とは沖縄気象台から300km以内を通過した台風をいう。

(単位：hPa、℃、%、mm、m/s)

降 水 量 (mm)				風 速 (m/s)					最 多 風 向	最大風速 10m/s 以上の 日 数	地震 回数
合 計	最 大 日 量	月	日	平均	最 大						有 感
					風速	風 向	月	日			
r1947.5	r213.0	6	r17	r5.5	r17.4	北北西	9	5	北北東	122	40
r2068.0	r100.5	6	r10	r5.2	r21.7	南東	r7	r9	北北東	97	64
2816.5	427.5	6	10	5.4	33.1	東南東	7	r13	北北東	98	78
1621.0	138.5	3	30	4.9	15.9	北	12	5	北北東	82	r 59
1864.5	155.0	6	15	5.3	19.4	東	8	6	北	105	78
2895.5	131.5	5	16	5.3	21.2	北	10	28	北北東	129	84
90.0	18.0	1	28	5.0	13.4	北	1	12	北東	8	8
276.5	84.0	2	15	5.6	16.0	南	2	26	北	14	14
41.5	24.0	3	9	5.8	14.4	北北西	3	10	南東	14	9
219.0	44.5	4	9	5.4	12.9	南南西	4	12	北北東	11	9
574.5	131.5	5	16	5.1	13.8	南	5	24	東南東	7	8
220.5	93.5	6	11	5.4	13.5	南西	6	15	南	13	3
348.5	81.5	7	29	5.7	13.3	南	7	28	南南西	13	10
281.5	84.5	8	9	5.3	16.6	南南西	8	9	東	9	1
193.0	56.0	9	5	4.9	14.8	東南東	9	18	南東	9	6
368.0	81.0	10	9	5.3	21.2	北	10	28	北北東	12	7
194.0	127.0	11	13	5.1	12.5	北	11	25	北北東	7	6
88.5	29.0	12	16	5.3	14.0	北北西	12	31	北北東	12	3

資料：沖縄気象台

- (5) 降水量の「合計」は、その年または月の降水量の合計値、「最大日量」はその期間中の日降水量（0時～24時まで合計値）の内最大の値である。
- (6) 風速の「平均」は年または月の平均値、「最大」はその期間中の10分平均風速の最大の値である。
- (7) 「最多風向」は年または月の期間中最も多い風向である。
- (8) 有感地震（震度計を用いて観測）、地震回数は沖縄気象台で観測した回数。

(12) 天気日数（平成22年）

(単位：日)

区 分	総 数	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
晴天日数	176	16	9	18	11	6	7	12	21	24	15	16	21
降水日数	149	11	17	6	12	14	12	14	23	14	12	5	9
雷日数	28	－	3	－	2	2	2	7	3	3	6	－	－
霧日数	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－

(注)

資料：沖縄気象台

- 晴天日数（日平均雲量＜8.5）
- 降水日数（1.0mm以上の日降水量が観測された日数）
- 雷日数（雷鳴が並以上及び雷光を伴う雷鳴が観測された日数）
- 霧日数（霧が発生した日数）

◎雲量とは、全天を雲が覆う場合を10、雲が全くない場合を0として、雲のある部分の割合を10分の1位で表す。

米 軍 施 設

本市における米軍施設は、牧港補給地区（面積273.7ha）施設で市面積の14.3%を占めている。牧港補給地区は、昭和23年、米軍の強制的な土地接収により基地建設が進められ現在に至っている。主に軍需物資の補給基地としての役割を担い、昭和47年、本土復帰に伴い施設内の米国民政府は廃止され、日本政府の提供施設となる。米軍は、牧港補給地区を『キャンプキンザー』と称している。

(13) 所有形態別軍用地面積及び地主数（平成21年3月末現在） (単位：千㎡・人)

区 分	施設面積	国 有 地	県 有 地	市 有 地	民 有 地	地 主 数
牧 港 補 給 地 区	2,737	295	0	0	2,441	2,306

(注) 計数は四捨五入のため、符合しないことがある。資料:「沖縄の米軍及び自衛隊基地」
「0」は表示単位に満たないものである。沖縄県基地対策室編集
牧港補給地区は、「キャンプキンザー」（米軍呼称）と同一である。

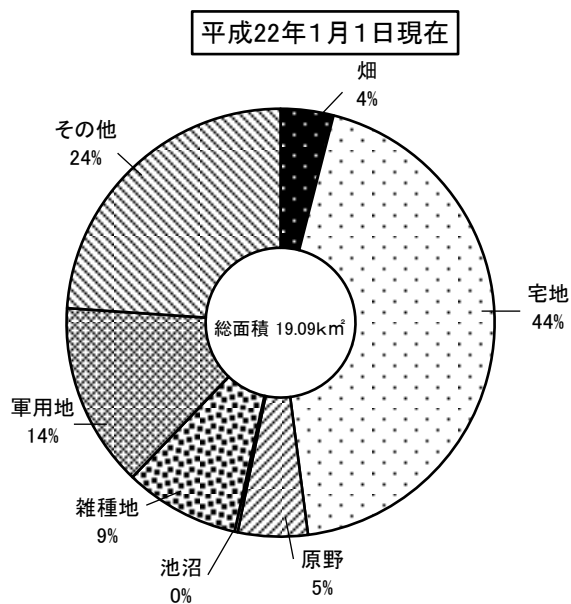
(14) 返還軍用地の状況（平成21年3月末現在） (単位：千㎡)

返 還 年 月 日	面 積	返 還 施 設 の 名 称
総 数	645	
昭和43年6月30日	201	新聞原地域（発電所施設）
昭和44年11月30日	1	牧港水道ポンプ
昭和47年5月14日	2	牧港補給地区（極東放送）
〃	8	〃 〃
〃	19	〃（V．F．W）
〃	11	〃（城間変電所施設）
〃	2	〃（小湾変電所施設）
〃	123	軍道一号線（国道へ移管）
〃	9	牧港・屋富祖水道ポンプ（企業局へ移管）
〃	2	牧港地下ケーブル
〃	56	高圧送電線施設
〃	5	外国人商社
昭和48年6月30日	3	浦添倉庫（一部）
昭和49年3月31日	1	牧港調達事務所
昭和49年9月30日	18	牧港補給地区（東空寿）
昭和49年12月10日	2	牧港倉庫
昭和50年1月31日	3	浦添倉庫
昭和52年3月31日	16	牧港補給地区（勢理客酸素工場）
昭和60年6月30日	30	陸軍貯油施設（内間～伊祖）
昭和61年5月31日	8	工兵隊事務所
平成元年3月31日	57	牧港補給地区（制限水域）
平成2年12月31日	7	陸軍貯油施設（伊祖～牧港）
平成4年5月14日	0	牧港補給地区（北側進入路の一部）
平成5年3月31日	1	牧港補給地区補助施設
平成7年2月28日	3	牧港補給地区（小湾川沿い）
平成13年9月30日	12	牧港補給地区南側進入路（勢理客）
平成14年9月30日	45	工兵隊事務所

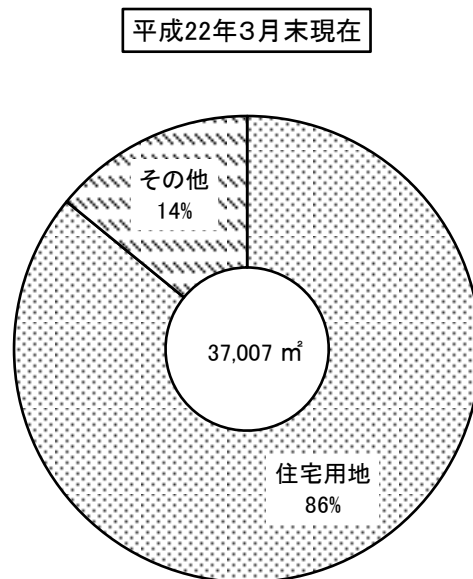
(注) 計数は四捨五入のため、符合しないことがある。「0」は表示単位に満たないものである。資料：企画課
昭和47年以前は総務課、昭和48年から平成14年までは西海岸開発課の資料である。

I 土地及び気象

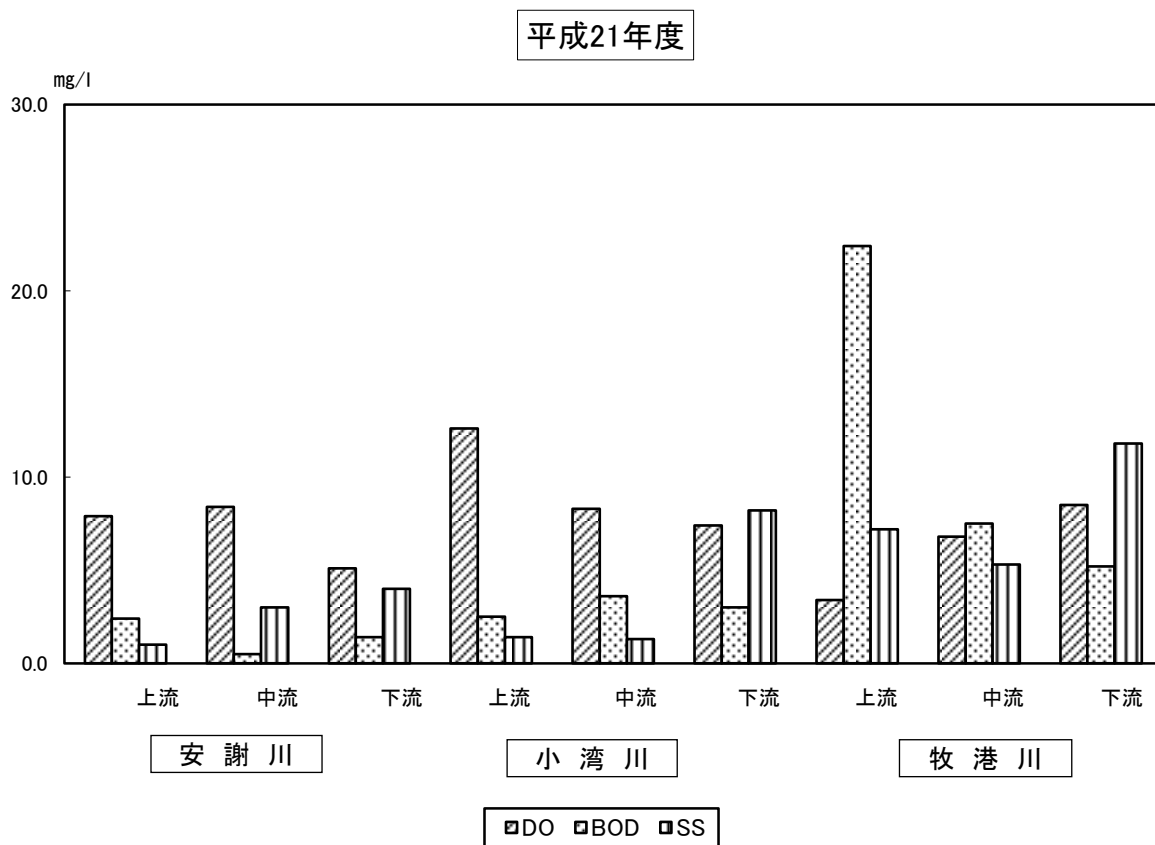
(1) 地目別土地面積 (P 33参照)



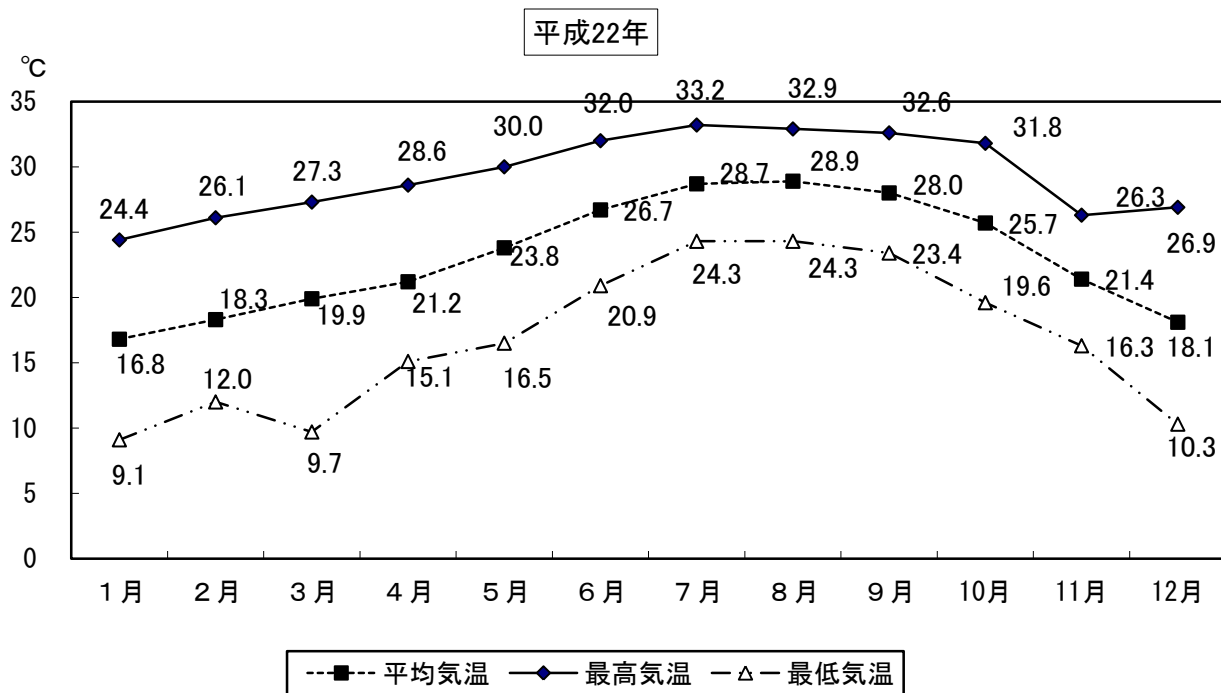
(2) 用途別農地転用面積 (P 33参照)



(3) 水 質 (P 35参照)



(4) 月別平均気温 (P 36参照)



(5) 月別降水量 (P 37参照)

